HARLEM SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"
- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -
03 Monthly News Paper March.2004 volume.54_issue.79

feature interview

18:30~

DJ KEN-BO

**「いろんな人達が時代を越えて楽しめる場を作りたいっていうのが一番。」と語っている、フロアの雰囲気づくりにかけては天才的なDJ KEN-BO。
毎週金曜日の"The Finest"への熱い思い入れを感じ取って欲しい。**

■「The Finest」について。スタートしてから半年経ちましたが、何か感じる事はありますか？

打ち出している部分は間違っていないと思うし、それは初めから変わらないかな。たまに他の場所とかで「新譜かからないんでしょ?」って言われたりもするけどそんな事はないよ。一般的に浮いちゃう曲でも、それがだんだん一般化していくっていうのもあると思うし、いわゆる外れた感じの曲はかけづらかったりするけど、でもそれはそれでかける訳だし、新譜の話だけど。あとは、最近のそういう流れの元にあるもの、N.E.R.D.とかだったら、SLY&THE FAMILY STONEだったり、RED HOT CHILI PEPPERSとかNIRVANAとかだったりする部分もあるからそういうのもかけたいな。あと例えばTHE ROOTSの"THE SEED"とか、あの曲はROCKっぽくて、普通に盛り上がる人は盛り上がっているからいいんだけど、金曜日以外でかけたりすると、たまに引く所もある。それが一般なのかなって思うけど、引かれたからといって媚びてやっていても仕方ないからさ。でもそういう事をすると「DADDY'S HOUSEの方が良かった」とか言うヤツも居るだろうし、それを言いたいのもわかるけど、でも今は"The Finest"になった訳だし、オレらのイベントだから、オレらしい事をやりたいよね。まだ半年だけど、ある程度は方向性は定まったかなっていう感じはするかな。「新譜かからないんでしょ」って言われている場面もありながら、とりあえず来てない人は何とでも言えると思うんだけど、オレがやっているから行くよっていう人が来てくれているし、ルイール最優秀パーティー賞も貰いましたし(笑)、そういう意味では良かったね。基本的に新譜だけっていうのは偏っているって事だから凄いバランス取って色々かけようとしているしさ、やっぱり古いのもかかりつつ、ジャンルも多少超えつつみたいなのがバランスだと思う。知っている曲しかかからないクラブはある意味つまんないっていうのを、みんな解ってくると思うんだけどね。決まった曲しかかからなかったらつまらないじゃんっていう。でも最近の一般の人は決まった曲がかかるのが好きみたいだし、そこが微妙。でもそれじゃいけないから変えようとしているっていうのはあるからさ。

■選曲で具体的に意識している事はありますか？

別に突っ込んでる訳でもなくて、普通なんだけどね。古いのばっかりになってもバランス取れなくなっちゃうし、それはそれで、例えば古いのだけかかるイベントだったらそういうのも有りだけどさ。それとマンスリーに"ALL MIX"って書いてあるでしょ。ALL MIXってどんな感じですかっていう質問もあったりしてさ、ちょっと考えれば分かることなのかなって思うけどね。

■ALL MIXだからHIP HOPとはちょっと違うと思われているのかも知れないですね。

HIP HOPだと思ってかけてるんだけどね、基本的に。HIP HOP的にカッコイイとか。たまにそうじゃないのもあるけど、それは個人的に音楽として好きだったり、歌っている人が好きだったりで、『オレは好きなんだ』みたいなものだから、それは良いと思っている。

ちょっと昔に戻ってみると、これが流行ってる、これが流行っていないってあんまり無かった時代もあったというかさ、CAVEとか小さいクラブが結構あった10年くらい前、ミドルスクールとかそういう時代は、今となっては結局良い曲がクラシックとして残っているけど、その時は別にどれが特別盛り上がるとか今ほどなかったような気がするのね。だからこそDJのセンスとかDJの選曲っていうのが本当にクローズアップされるっていうのがあったのかなって思うんだけど、今は何が流行っていて、何が流行っていなくて、何がイケてる、何がイケてないっていう感じで、いろんな情報をいっぱいメディアでやるからある程度決まってきちゃっている。例えばCATVとかの音楽番組でいっぱい流れるような曲はそれによって売上やみんなの認知度もあがるんだろうけど、それは良い事でもあるけど悪い事でもあるのかな。それによって音楽聴く人も増えているのは良い事だけど、今まで以上にそれによって流行りとかが出ちゃっていて、宣伝とかメディアに載ってなければ、これ凄い良いねっていう物が表に出にくくなっちゃうっていうか、それは悲しいよね。でもやっぱりオレはDJをやっていて、基本的にお客さんに楽しんで貰いたいっていうのが一番大きいから、そういう流行りものも無視は出来ないし、そういう所も多少追わなきゃいけないし、でも例えばゲームセンターでゲームしている時ですら最近のHIP HOPが店内でかかってるっていう状況も悪くないって思うし(笑)。凄い微妙なんだけど。

■聴く人もクラブに遊びに来る人も全体的に広がってますよね。

以前までは全体が比較的ツウな感じというか、多少コア寄りだったけど、今は全然そんな事はないよね。それは良い変化ももたらしたし、ちょっと良くない変化ももたらしたっていうのは間違いない話。でも別にそんな事考えないで、いわゆる流行り物もポップスとして良いものは聴けばいいのかなって思うときもある。ちょっとミーハーな曲も、しかめっ面して「これはワックだよ、ダメだよ」とか一概に言っている場合じゃないのかな、目くじら立てて。これはフックがこういう感じだから、ポップだけど何かウケそうだな、嫌なんだけどな、でも気付くと口ずさんでる自分が居たりとか、逆らえない所もあるしね、微妙だよね。ちょっと極端な例だったけど、要するに音楽全体で見ないとダメだと思う訳。いわゆるHIP HOPだけになっちゃうと、他を受け付けなくなりがちだし。そうすると一方向からしか言えないって事になるし。だから見方を変えると、例えばDMXだったり、DR.DREだったり、そういうのから入った人が、"THE SEED"とかちょっとROCKっぽい曲とかちょっと変わった感じの曲とかを始めは「何だよこれ」って思っても、その後に出たJAY-Zのアルバムの"99 PROBLEMS"ってもろROCKじゃん。ああいうのを聴いたら有りなんだって、それによって有りになっちゃうみたいな。この中から出てきた物しかOKを出そうとしないっていうか、そういう曲に影響を与えた物を初めに受け付けてくれない、みたいな。「これは違う」って思う前に「なんか良いな」って思ってほしいよね。あとさ、巷ではVon Dutchのキャップとか流行ってるじゃん。あれとかも基本的に70年代とかオールドスクールなテイストがある感じじゃん。音楽もN.E.R.D.とか70年代っぽかったりする物もあったりして、そういうのって繋がっていると思う訳。だからVon Dutchをかぶっているのに、ちょっとROCKっぽかったり、そういう年代的な音楽は受け付けないのはどうかと思っちゃう。

入りはどっちでも良いんだけど、今それが流行ってるのは、音楽とシンクロしている部分もあったりする訳だから。まぁ、オレがそこまで言う事でもないのかも知れないけどね。

今わからなくても、いつか解ってくれれば良いかなと思ってやってるかな。可愛い女の子が踊ってて"THE SEED"をかけるとフロアから出ちゃうのは悲しいんだけど、引くだろうなって分かっていてもかけるみたいな。

■それは毎週あるレギュラーイベントですから、あえてそういう曲をクローズアップする週や、新譜寄りの日を作るのも良いですよね。

それはそうだね。それはオレもやってるから。最近ちょっとNEW JACK SWINGを多くかけてるからやめてみるとか、そういうのもあるし。でも"The Finest"とかでかけてた曲がちょっとしてからネタで使われたり、そういう事もあったりして、そういうのを聴いて「そういえばあの時これがかかってたな」って思ってくれたらなって。耳が肥えてる人は解ってくれると思う。でもそういう人達を踊らせられないとダメだなって。基本はそこです。そんなに媚びたくはないなっていうのが正直な所で、結構自分次第な所もあるけどね。今盛り上がっているから、もっと盛り上げてあげた方がいいかなとか、そこまでお客さんが入っていない時は、ちょっと一回落としておこうとか、お客さんを見ながらやるっていうのがもちろんあるし、媚びるっていう感じではないんだけどね。

■結局1日が終わって全体的に「今日は楽しかった」っていう感じですよね？

そうだね、それが出ればいいかな。それはこれからも変わらないし。あと、"The Finest"はMCが入らないじゃない。それはちょっと不安だったけど、入らなくても平気だったって言えるかな。繋ぎとか流れで聴かそうとしてるからさ、MCも居てくれてそれを増長させてくれる人だったらいいけど、それが出来る人じゃなかったらやっぱりちょっと耳障りになるのかな。やっててもそうだし、みんなもそうだと思うしね。でもそういうう まい人はもう誰かの横に付いちゃっているし、オレは昔ジブさん(ZEEBRA)が付いていてくれたけど、今はジブさんにそういう事をやってもらう訳にもいかないしね。でもあの人が来たらなにも言わずマイク持つけどね(笑)。

■これから"The Finest"をどうしていくかなど具体的に考えている事があれば教えて下さい。

選曲に関しては、いつも何かをしようと思っているつもりなので、強いてこうしようっていうのはあんまりないんですけど。例えば外人のゲストDJが来たら、オレが居て、ゲストDJが居て、二人で何かやりたいなって思う。今は誰かが来たら、その人がメインになっちゃってるから、そうじゃなくて、オレも居てその人も居て一緒にやりたいかな。このイベントはオレがやってるっていうのが一番大きいと思うのね。それは選曲重視だし、MCも入らないし、ショウタイムもないし、特別な事っていうのはオレが5時間プレイをやる事だったりとかするので、そこは変えないようにしたいかな。その為には自分がきちんとやっていないとダメな事だから。それはやっていきますので。あとは、その都度思った事があったら具体的にしていきたい。突拍子もない事や、そんなの出来ないよっていう事もあるだろうしさ、それはその都度やっていければなっていう感じです。それとやっぱり音楽のクオリティは一番にしていきたいな。それに付随してくる物だったり、ネタ的な所は結構みんなやっちゃっているしさ、それだったら音楽、選曲とか振り幅を一番にしていきたいな。変わった事はしたいけどね。

■実際5時間のロングプレイをやってみていかがでしたか？

しんどかったです(笑)。終わった後に体が痛くなっちゃった。営業的にしんどかった週だったのでかなり疲労が出ました。でもやってるとあっという間だったりするんだよね。「あ、もう2時間経った」とか。5時間プレイは前にもやってるけど、HARLEMと前やっていた所とは違うからさ。今回は「初めから聴くぞ」みたいな人が多くて、いつもはマッタリと始まるんだけど、やっぱりHARLEMっていう場所だけに、アゲる時間が早かったり。普通にいつもの1時間とか1時間半のペースでやっちゃったんだけどね。それでも気付いたら、もうこんな時間だ、もうちょっとだって感じだったから、まあ良かったかな。

■去年から今年にかけて、FIRSTKLASやZEEBRAさんのツアーを回ったりとかなりハードだったと思いますが、メインのクラブDJとしての活動には特に支障はなかったですか？

心身共にっていう言葉がはまる疲れだったんですけど、自分がクラブDJだっていう部分に関しては全然消さないで、そこは一番にしてやったっていう自負はあるね。でもFIRSTKLASやジブさんの事っていうのは、活動する時間帯が違ったりするので、体調管理が難しくなるっていう部分は確かにあったね。でもこれからは色々経てFIRSTKLASでやっていくバランスとかが見えてきたっていうか、だから多少やり易くなっていくんじゃないかな。

■クラブDJとFIRSTKLASをやる事で、上手くリンクされる部分も多いですよね？

FIRSTKLASは、流行りを追っていくっていうよりも、向こうと同時進行でやっていきたいなっていうのがあって、それは向こうの流れを見るっていうのが大事なんだけど。少し一般っぽい物の中に入れづらいような曲でも、クラブに行ってかけた時に映える曲っていうのかな、凄いそこまでONじゃないというか、例えば最近だったらJOEの"RIDE WIT U"とか。あれはちょっと拍子が変だし、サンプリングっぽいビートだし、ちょっとミドルスクールっぽい雰囲気もあったりして、あれも今のど真ん中の物でもないのかも知れないけど、でもカッコイイしかかったら盛り上がるじゃん。そういう曲を作りたいんだよね、FIRSTKLASでは。流行りだったりする物は注入しなければならないけど、それがベタな物ではなくて、多少流行りは押さえつつ、それを全く模倣するんじゃなくて、オレらだったらこうするっていう返答みたいな感じでやっていきたい。自分で物を作るときは、例えばもっとHOUSEっぽかったり、もうちょっとビートが変な曲も作りたいと思うけど、FIRSTKLASでやる時は、いわゆる今の流行りっていう物を押さえながらその先を見ているっていう感じでやっていきたい。そういうの凄い難しいんだけどね。DJとしては流行りとかだけじゃなくてって言っているけど、でもやっぱりさっきも言ったけど、流行りも押さえないといけないよって。でもその流行りっていう部分でも、オレがこういうのも良いなって思える部分はDJにも反映されていくだろうし、曲作りにも反映されていくんじゃないかなって思います。

■最後に一言。

みんなが楽しめるようにしたいなっていうのはあって、それは若い最近入門した子ばっかりの為だけではなく、クラブに10年以上行っているような人達にも楽しんで欲しいっていうのが大前提で、下はIDチェックでギリギリ入れる年から上は40歳、50歳くらいの人達まで来てくれても構わないからさ。色んな人達が時代を越えて楽しめる場を作りたいっていうのが一番。やっぱり音楽っていう物の中でみんなが一つになって、基本的にLOVEっていう物を伝えるのが使命だと思っているので、そこです。あんまり詮索しないで、スッと来てくれて、それで判断してくれたらいいし、別に来る者拒まず去る者追わずだったりするので、よろしく。でもみんな来て欲しい、それはそうなんだけど(笑)。